

緊急 トップインタビュー

ビック・ママ（仙台市）

代表取締役 守井 嘉朗さん（50）

地元のキーパーソンにコロナ対策を聞くシリーズ。今回は衣類修繕業を軸に、保育園運営などを手掛ける「ビック・ママ」代表取締役の守井嘉朗さん（50）です。

—仙台市内の小学生全員に布マスク5万3000枚を寄贈しました。

縫製を得意とする企業としてどんな貢献ができるかと考え、4月中旬に決断しました。タイの提携工場で生産し、6月の学校再開に合わせて贈りました。

—業況は。

暖冬で冬物衣料が動かず苦戦していた中でのコロナ禍。4月の売り上げは前年の2割という苦境です。レナウンの経営破綻に象徴されるように、アパレルはファストファッションの比重が拡大の一途。これはお直しにとっても影響が大きく、例えばそれまで袖丈を詰めていたのが、まくって済ませるといことです。

働く人の心を晴れやかに



ポストコロナの時代、弊社はお直しを柱にしつつも他分野に事業を広げ、一層のリスク分散を急ぎます。

—すでに手は打っています。

近日中に「マインドウエザー」と名付けた企業向けLINEサービスを発売します。直訳通り、従業員に自分の「心の天気」を晴れ、曇り、雨から選んで申告してもらうことで、企業側は

新型コロナウイルス

ともに
乗り越えよう

その情報をスタッフのケアや職場の改善につなげられるという仕組みです。匿名での申告を受け付ける機能や、経営者が動画を一齐配信できるオプションもあります。僕自身が起業以来27年、スタッフの急な離職とその対応に悩まされてきた経験に基づいて開発しました。弊社では既に活用していますが、自信の出来栄です。働く人の心を、曇りや雨から晴れにすることで社会に貢献します。

information

マインドウエザーの利用料は月額1人300円（税別）。守井さんが自ら出演し説明している動画は、右のQRコードからアクセスできる。連絡先はビック・ママ022（223）5328。



企画・制作／河北新報社営業局